

全史料協大会に
ポスターを出展して
全史料協関東部会事務局

関東部会は、昨年11月12日、13日に開催された第41回全国（秋田）大会のポスターセッションに出展しました。

関東部会は、昭和59（1984）年に発足した全史料協の地域部会で、関東信越地区の機関会員と個人会員により構成されており、年に数回開催する研究会や半年ごとの会報発行など、活発な活動を続けています。

今回、全国から関係者が集う大会において、ポスターセッションに出展することは、関東部会の活動をより多くの方に知ってもらうよい機会と考えました。

ポスターは事務局の手作りで、細かい説明は思い切って省き、昨年7月の松本市文書館の視察見学の様子を中心に、毎年ゲストをお招きして開催している総会記念講演会や定例研究会の写真を配置し、活動の様子をぱっと見てつかんでもらえるように工夫をしました。また、更に詳しい情報を提供するために、ポスターの前に会報を展示し、実際に手に取って読んでいただけるようにしました。

このように、ポスターの目的を、「関東部会の活動を知ってもらうこと」とし、来場者が離れた位置で立ったまま見ていただくことを考え、文字による説明を必要最小限としたデザインとしましたが、大会当日、他の展示を拝見すると、研究内容や事業活動が詳細に記されており、当会の情報量は少ないと感じました。展示のA0サイズのポスターを作製したのは初めてだったので、掲載する情報のバランスがうまくつかめませんでした。今回の反省点のひとつです。

関東部会の広報は従来から会報での報告が主でしたが、今回ポスターセッションに参加

して、関東部会の活動をどのように説明したらよいか、文字ではなく図画で効果的に説明するにはどのようにしたらよいかなどを考えた経験は、会の広報活動に役立つものとなりました。今後は与えられた情報提供の場を有効に活用していきたいと考えています。

文書館等の歴史資料保存利用事業担当者は、それぞれが属する組織の中では小規模な部門で、いろいろ悩みを抱えることも多いのではないのでしょうか。関東部会の活動は、9名の運営委員を中心として、現場の様々な事象の中から課題を整理し、研究会のテーマを設定して、講師依頼から当日の会場設営まで、毎日の自らの業務を抱えながら実施準備を行っています。こうした現場で汗を流している者が企画した事業だからこそ、実際の業務に密接した具体的な内容の研究会が開催できています。ひとりひとりが目に見える距離で参加できる研究会の場で、組織を超えて多くの仲間と情報を共有したり、意見を交換することで、元気が沸いて、また新たな気持ちで業務に向き合うことができると思います。この関東部会に1人でも多くの仲間を迎えたいと願っています。

今回、全国大会に参加して、人と人が直接交流することで生まれる力を感じました。来年三重で再会することを楽しみにしながら、引き続き関東部会の活動を積み重ねてまいります。
(星野宏幹)